

生徒Aさん：なぜ仁淀高校が廃校になるのかを聞きたいです。

教育長：大変痛いことを聞かれました。一番聞かれなくなかった質問です。やはりあまりにも生徒の数が少なくなってきた。もうこれに尽きます。置いておきたいんですが、あまりにも学校の規模が小さくなっていく。高校生として成長していくためにはある程度の人数がいないと生徒の成長に結びつくのが難しい面が出てきます。もちろん小さい方がいいこともあります。ありますが、あまりにも小さくなってきたので、どうしても維持ができなくなってきたということです。胸が痛みます。今の発表も聞いていまして、せっかくここで皆さんが頑張っておられるのに残念ですが、そういうことで廃校するということになりました。

知事 3年生と2年生が何人ですか。

生徒Aさん：3年生が20人、2年生が8人です。

知事：20名と8名ですね。県立高校の存続については、教育委員会の話で私が答えてもいけないのかも知れませんが、私の考えを言わせていただきます。今3年生が20名います。2年生8名。そしたら1年生が何人になるのか。だんだん人数が少なくなってきましたよね。そのときに1学年で、例えば8人、20人だったらいろいろなことができた。8人でもまだいろいろできる。ですが、1年生、2年生、3年生を合わせても非常に人数が少なくなったときに、例えば今のように力を合わせて共同研究をしようとしてもだんだん限界も出てきたり、ということもあるのではないかな。それから特に高校生ぐらいの時代というのは、集団の中でどのように生きていくのか、人間関係をどのように作っていくか、そういうことが非常に重要な時期だと思います。そういうときに人数の少ないところで、しかしこれから社会に出たら何十人、何百人という人たちの中で仕事をするようになるわけです。やはり一定の人数のいるところで授業とかいろいろな活動をしていった方がいいんじゃないかなということで、ある程度以上人数が集まらない場合には高校は廃校にしていくという形、統合・合併をしていくということでやってきているんだと思うんです。

寂しいですね。私たちだって好き好んで統合とか廃校をしているわけではないです。生徒さんが少なくても残すべきだというご意見もあるかもしれません。一つには生徒さんが少なくても残していくとなると、学校を運営すること自体、人の点でもお金の点でも大変だということもあります。もう一つは先ほど言った教育効果という点です。そちらの方が大きいと思います。寂しい気持ちはよく分かります。できればやりたくないし、そういう高校が増えることは残念だと思います。私も「対話と実行」座談会に行ったら、あちこちでものすごく怒られます。できればやりたくないことです。